

危機にさらされる子どもたち

本地図は2016年末における世界的人道状況と、子どもたちやその家族に影響を与えている重大な危機を示している。

ハイチ

過去10年間で最も強い勢力のハリケーン「マシュー」に襲われた結果、17万5,000人が移動を余儀なくされ、80万人以上が命を守るための支援を必要としている。

ジカ熱

ラテンアメリカ・カリブ諸国・アフリカ・アジアの少なくとも75カ国に影響を及ぼしているジカ熱の流行は、女性や子どもたちの健康を危険に晒し、新生児における先天的な脳神経の疾患の原因となっている。

欧州難民危機

2016年には、およそ35万人の難民・移民がヨーロッパに到着した。海路でギリシャ・イタリアへ到着した人々の半数近くは子どもであり、主にシリアとアフガニスタンからの難民であった。これらの多くの子どもたちは暴力、虐待と搾取を経験した。

ナイジェリアとチャド湖周辺地域

継続中の紛争によって、チャド湖周辺の240万人が移動を余儀なくされた。最も被害が大きいナイジェリアの北東3州では、40万人以上の子どもが重度の急性栄養不良によって命の危険にさらされている。

シリアとその周辺国

シリア難民危機は、第二次世界大戦以来、最も大きな人道危機である。シリアに隣接する国々は、220万人以上の子どもを含む、480万人以上を難民として登録し受け入れている。

イラク

イラクで激化し続ける紛争によって、推定1,100万人が人道支援を必要としている。少なくとも140万人の子どもを含む、300万人以上が避難を余儀なくされた。

アフガニスタン

アフガニスタンでの武力紛争と拡大する情勢不安により、2016年には24万5,000人の人々が自宅を追われ、国内避難民の総数は110万人に増加した。

ミャンマー

ミャンマーでは、ラカイン州北部・カチン州・シャン州においての3つの人道危機が長期化している。集団間の暴力は女性や子どもたちに対しての大きな被害を生んでおり、大量の避難民を生み出した。

アフリカ南部 エルニーニョ/ラニーニャ

2015年から2016年にかけて起こったエルニーニョ現象は、アフリカ南部の多くの地域にとって過去35年間で最も深刻な干ばつをもたらした。この地域で暮らす何百万人もの人々、特に子どもたちへの食糧不足の被害は甚大なものであった。

南スーダン

再発した紛争が人道危機をより大きくしており、女性や子どもは暴力・移動・命を脅かす病気の差し迫った危険に直面している。国は重大な栄養危機に直面しており、人口の推定31%は深刻な食糧不足に苦しんでいる。

イエメン

まもなく丸2年となる紛争によって、イエメンの人々はかつてない栄養危機に晒されている。推定330万人もの子ども・妊婦・授乳中の女性が急性栄養不良に苦しんでおり、5歳未満の子ども46万人近くが重度の急性栄養不良状態に陥っている。



矢印は紛争による隣国への人々の移動を表す。

本地図の縮尺は調整されており、正確ではない。

国境の法的地位に関して、ユニセフとしての何らかの立場を表明するものではない。

点線で示されているのは、インドとパキスタンの間で合意された管理ラインである。ジャンム・カシミール州の最終的な地位については両者の間でまだ合意されていない。スーダンと南スーダンの間での最終的な国境はまだ決定されていない。